

食材交流型スポーツイベント「第1回奥尻ムーンライトマラソン」

データ [内容](#) [詳細レポート](#) [フォトレポート](#)

[印刷する](#)

ジャンル	[アミューズメント型イベント], [スポーツイベント > 競技大会], [参加体験イベント > その他の参加型イベント], [各種PRイベント > 観光PR], [地域振興イベント]
開催日	2014年06月14日
開催地	北海道 > 北海道
主催者	奥尻ムーンライトマラソン実行委員会
概要	SPECIAL REPORT 頑張れ、ニッポン！イベントが「地域おこし」をサポートする～その②

地域の成功事例の新たな水平展開モデル。
離島が抱える課題への解決モデルとして、「ライセンスビジネス」活用。
島の「知財」でもてなし、食材交流型スポーツイベントが観光のカンフル剤に～

平成5年に発生した北海道南西沖地震から20年という節目の年に、地震・津波・火災により198名もの尊い命が犠牲となった北海道の離島、奥尻島は、いま新たな施策を図ることで島(地域)おこしの成功事例を構築し始めた。それは、島の貴重な資源である農業・漁業の食材を賢沢に提供した食材交流型スポーツイベントの展開である。しかも、このイベントは、南の島・伊平屋島で20年に渡り開催されてきた「ムーンライトマラソン」をライセンス契約により誘致したことである。地域の成功事例の新たな水平展開モデルとして注目のイベントといえよう。

奥尻のおいしいおもてなしが始まりました～

伊平屋島の特産泡盛～

伊平屋と奥尻のライセンス契約

データ

内容

〈開催概要〉

「第1回奥尻ムーンライトマラソン」

沖縄県伊平屋村で20年に渡り開催されている、「ムーンライトマラソン」を北の地・奥尻島にて開催。大会はフルマラソンとハーフマラソンの部に分けて実施され、フルマラソンは午後8時スタート。制限時間は6時間の夜9時。男女合わせて243人が参加。また、ハーフマラソンは、2時間後の午後5時スタートで、制限時間は3時間30分、最終フィニッシュは午後8時半。ハーフマラソンには男女計264人が参加。フル・ハーフ合わせて計507人が参加した。なお、フルマラソンは、道南地区で初めての大会。大会参加者の最高年齢はハーフマラソン男子の部に参加した80歳の男性。最少年齢者はフルマラソンの部に参加した19歳の男性であった。

- 日時:2014年6月14日(土)
- 主催:奥尻ムーンライトマラソン実行委員会
- 共催:北海道新聞社函館支社
- 後援:北海道檜山振興局・(社)北海道観光振興機構・北海道運輸局
- 特別協賛:江差信用金庫・ハートランドフェリー株式会社
- 協賛:サッポロビール株式会社・株式会社北海道エアシステム・医療法人社団仁生会西堀病院・有限会社加賀屋・株式会社こせき・北海道ココロラボトリング株式会社・医療法人社団きむらクリニック・大同舗道株式会社・エル電株式会社・奥尻ライオンズクラブ・株式会社森川組・函館空港ビルディング株式会社・共和コンクリート工業株式会社・小林酒造株式会社・太平洋セメント株式会社・有限会社奥尻総業・奥尻建設協会・株式会社太陽グループ・JFE環境サービス株式会社・セイコーマート奥尻店・株式会社カナモ・株式会社ECF・亀田工業株式会社・ホームックニコット奥尻店

[PAGE TOP](#) ↑

詳細レポート

北海道奥尻島で「ムーンライトマラソン」プロジェクト始動！多くの人に美しい夕景、おいしい魅力をたっぷり味わってもらいたい！

漁業・観光業等の基幹産業の低迷、若い人の島外への流出など、さまざまな問題が山積する離島・奥尻島では、島を活性化するため、「奥尻ムーンライトマラソン」の企画を立ち上げた。「ムーンライトマラソン」とは、夕方～夜にかけて走るマラソンで、あわせて奥尻米やあわび等の「島」のおいしい奥尻ならではの美しい魅力、さらにはブナの森や美しい海、そして温かい人情等の「島」の魅力をイベント参加者の方々に堪能してもらい、まさに食材交流型スポーツイベント。そして、このイベントを通じて、奥尻島の未来の子供たちへ「奥尻島」という価値あるバトンを渡すため、島の活力を取り戻し、ふるさとへの活性化に貢献する、という大きな目標があった。

伊平屋村とライセンス契約し、「奥尻ムーンライトマラソン」が開催。知財の有効活用を図ったスポーツイベント。

「ムーンライトマラソン」とは、沖縄県伊平屋島で開催されている、2014年で20回目の開催を迎える、夕方～夜にかけて走るマラソン。日差しが弱く夕方から夜にかけて走るため、マラソン初心者や女性ランナーに人気のマラソンである。この「ムーンライトマラソン」を奥尻島の地域活性化の突破口に！という想いから沖縄県伊平屋島に協力を打診。伊平屋村・伊平屋村商工会と奥尻町・奥尻島観光協会がライセンス契約を締結し、伊平屋島から奥尻島へ「ムーンライトマラソン」の商標・システム、そしてノウハウを授け、奥尻が5%のロイヤルティを支払うことでコラボレーションが成立した。マラソンコースは、島の東海岸を北から南へ走る海岸線のルート。スタートして島の海岸線の景色を堪能し、鍋釣岩・宮津弁天宮などの観光名所を通り過ぎ、コース終盤に差し掛かると夕暮れとともに、東の海岸に満月と漁火が現れる…。「月光と漁火があなたと影を照らす」という「奥尻ムーンライトマラソン」のテーマコピーそのものの情景が展開される。

奥尻は「奥尻らしく」～。大会前後に行われた前夜祭・後夜祭は、温かな奥尻島の人々の気持ちが凝縮されたイベント。

「奥尻ムーンライトマラソン」のもう一つのお楽しみは、「前夜祭」と「後夜祭」。「前夜祭」は大会前日の夕方6時から開催され、奥尻の「知財」ともいえる“海の幸”で大会参加者へのおもてなしが行われた。前夜祭開始の6時から2時間あまる間には、めかぶそば、奥尻米、焼き物、奥尻ワインカクテル、そしてライセンス契約をした伊平屋島からは泡盛「照島パンチ」も提供された。ステージでは、北海道が誇る檜山の郷土芸能「江差追分」歴代チャンピオンによるステージライブが行われ、翌日の大会ムードを大いに盛り上げていた。そして、「ムーンライトマラソン」終了後は「後夜祭」が行われ、参加者に奥尻海鮮汁、奥尻米の炊き込みご飯、キトビロ(行者ニンニク)、焼き物セットといった奥尻自慢の「島の味」が提供され、表彰式、優勝者からの接拶、そして島ライブと奥尻は夜遅くまで大会大成功の余韻に酔いしれていた。

離島ならではの「おもてなし」～その心を島の未来の子供たちへ、「奥尻島」というバトンを渡すイベントに。

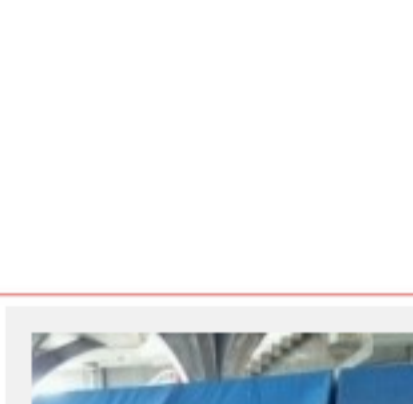
離島は日本社会の30年先の縮図といわれている。過疎も他地域と比べて進んでいる傾向があり、奥尻島も例外ではない。データをみると、奥尻島への観光入込客数は、2001年49,500人から10年後の2011年には33,300人と約33%減少。また島の貴重な資源である漁業は漁獲金額が1991年1,524,982千円が2011年には927,982千円と約40%減。奥尻島の居住人口も1995年4,301人から2011年2,978人に減少。減少率は30.7%にも達している。このままでは「島」がなくなってしまうのではない、そんな危機感をもつ奥尻の人々が観光基盤の強化と奥尻島の「知財」、すなわち奥尻島ならではの農産物・水産物のブランド商標化、特産物の強化を図るために、そのひとつの施策として食材交流型スポーツイベント「奥尻ムーンライトマラソン」を開催したのである。この「ムーンライトマラソン」の成功が「奥尻島」という価値あるバトンを次の世代の子供たちに渡すための起爆剤として機能していくか、島に活力を取り戻す「ぎゅっけい」、カンフル剤になるのか、来年以降の「奥尻ムーンライトマラソン」の成功を大いに期待していきたい。

[PAGE TOP](#) ↑

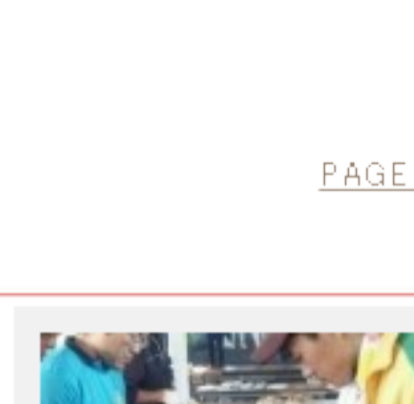
フォトレポート



奥尻ならではのおもてなしの準備～



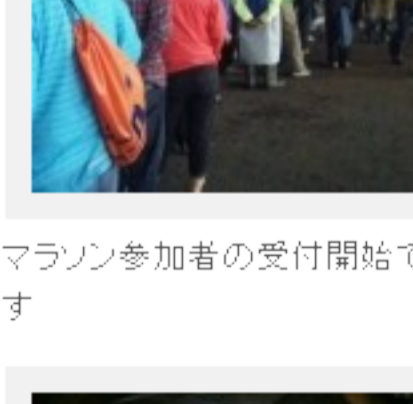
マラソン参加者の受付開始です



奥尻のおいしいおもてなしが始まりました～



自慢の焼き物コーナー



前夜祭でございさつ



伊平屋島の特産泡盛～



伊平屋と奥尻のライセンス契約



海産物とアスパラのごちそうです



ゼッケン11は65歳のフルマラソン出場の男性



いよいよスタート！の時間が迫ってきました



まずは完走目指して、スタート！



ゴールはムーンライトの夜～



見事完走しました！



後夜祭での表彰式



また来年もいらっしやい！

[PAGE TOP](#) ↑

株式会社 インタークロス・コミュニケーションズ

イベントに関するお問合せはこちらまで

TEL : 03-5820-7161 (代表)
FAX : 03-5820-7166

[ファックスお申込み用紙はこちら\(PDFファイル\)](#)

[メールでのお問合せ](#)